

## 2 重点分野・主要施策

計画期間中に取り組むべき施策の方向性を示すものとして、5つの重点分野（（1）～（5））を設定しています。

次に、これらの5つの重点分野を実現するための主要な取組として、重点分野毎に主要施策（丸数字）を設定しています。

さらに、主要施策（丸数字）ごとに「現状と課題」、「目指すべき方向」を明記し、その実現に向けた具体的な取組として「個別施策」を記載しています。

### （1）生涯現役社会の実現と熊本型自立支援ケアマネジメント、健康づくりの推進

「長寿で輝く」社会の実現のためには、高齢者が生涯を通じていきいきと活躍できる「生涯現役社会」の実現やそれを支える健康づくりが必要です。

また、自立支援型ケアマネジメントを通じて高齢者が住みたいと思う地域でできる限り生活することができるようにすることが必要です。

#### ①高齢者のいきがい就労の促進

##### 【現状と課題】

- ・本県は全国有数の長寿県であり、平均寿命は男女ともに全国4位、65歳から75歳未満の要介護認定率は4.2%と元気な高齢者が多く、また、現在の高齢者は10年～20年前に比べて5歳～10歳若返っており、高齢者は社会の支え手であるとの提言もなされています。
- ・しかしながら、65歳以上の高齢者の7割以上が65歳でも働く意欲を持っていないながら、実際の就業率は約2割にとどまっている状況であること、また、就労は健康づくりや介護予防にもつながるとされていることから、「生涯現役社会」の実現に向けた高齢者のさらなる就労の推進が必要です。

##### 【目指すべき方向】

- ・高齢者が住み慣れた地域で、本人の希望や能力を生かしながら、生きがいを持って暮らすことができる「生涯現役社会」を実現するため、元気高齢者の就労機会を拡大するための取組を推進します。

##### 【個別施策】

##### ○高齢者の希望や能力に応じた多様な就労の促進

- ・高齢者の就労促進を目的とした熊本県生涯現役促進地域連携協議会と連携し、事業者向けの高齢者雇用に関するセミナーや高齢者向けの就労セミナー

一の開催による啓発活動、事業者に対する働く場の拡大の働きかけ、就労に係る総合相談等を実施します。

- ・ ハローワーク、シルバー人材センター、高齢者無料職業紹介所等を通じて就職を希望する高齢者と求人を行う事業所とのマッチングを行い、高齢者の多様な就労等を推進します。

## ②高齢者による地域・社会貢献活動の推進

### 【現状と課題】

- ・ 県民の約3割が65歳以上の高齢者で、その約8割を占める元気な高齢者を中心に、定年後の地域・社会活動への参加等が求められています。
- ・ しかしながら、高齢者自身が社会参加等の主体的な活動に関心はあるものの、具体的な活動には至っていない状況であるため、その活動の場を拡大していく必要があります。

### 【目指すべき方向】

- ・ 元気な高齢者が積極的に社会を支える存在として活躍し、また、高齢者が互いに支え合うことを推進します。

### 【個別施策】

#### ○高齢者の社会参加に向けた意識啓発・活動の場の提供

- ・ ねんりんピック出場選手やシルバー作品展出品者等をシルバーインストラクターとして登録し、地域からのスポーツ文化活動の指導等の要請に応じて登録者を派遣します。
- ・ 家庭の事情等により学習や体験活動をする機会が十分に確保されにくい子どもに対して地域で行っている学習及び体験活動の支援には、元教職員等の高齢者を含む地域人材が活用されています。

#### ○老人クラブ活動の推進（シルバーヘルパーの育成等）

- ・ 元気な高齢者が一人暮らしや体の弱い高齢者宅を訪問し、話し相手や生活援助等を行う友愛訪問員（シルバーヘルパー）活動を推進します。

## ③地域リハビリテーション体制を生かした自立支援の強化

### 【現状と課題】

- ・ 地域における介護予防の取組や地域ケア会議等の充実により、高齢者が心身ともに健康で身近な地域の活動に参加しながら自立した生活を送ることができるよう支援するために、医療や介護の多様な専門職団体と連携した地域リハビリテーションの推進体制を構築し、専門職の人的基盤の強化に取り組んでいます。

- ・地域リハビリテーション体制については、全県的な人材育成等の取組を行う「熊本県地域リハビリテーション支援センター」を設置するとともに、圏域における人的基盤づくりや専門職派遣の中核となる18の医療機関等を「熊本県地域リハビリテーション広域支援センター」とし、さらに増大する支援ニーズに対応するため、当該広域支援センターと連携して現場活動を担う「地域密着リハビリテーションセンター」の指定を平成28年11月に開始し、三層構造の体制により地域リハビリテーション活動を推進しています。
- ・今後、高齢者の自立支援に向けた取組を充実させていくためには、さらなるリハビリテーション専門職等の派遣体制の充実・強化が必要です。
- ・災害時の高齢者等の生活不活発病対策として、熊本地震の際には避難所や仮設住宅における生活環境の調整や介護予防活動等の災害リハビリテーション活動を実施しました。

#### 【目指すべき方向】

- ・1人でも多くの高齢者が少しでも長い期間、心身ともに健康で身近な地域の活動に参加しながら安心して暮らすことができるよう、熊本の強みである地域リハビリテーション体制を生かした熊本型自立支援ケアマネジメントを推進します。

#### 【個別施策】

##### ○熊本県地域リハビリテーション支援センターによる支援

- ・地域リハビリテーション広域支援センターや地域密着リハビリテーションセンター等の関係者に地域リハビリテーションに関する研修や相談支援等を行います。

##### ○地域リハビリテーション広域支援センターによる支援

- ・地域リハビリテーション広域支援センターによる地域密着リハビリテーションセンター等の専門職に対する研修会や連絡会の開催、相談対応、実地支援等を通じて、専門職人材の育成や顔の見える関係づくりを推進し、地域における専門職派遣体制の充実を図ります。

##### ○地域密着リハビリテーションセンター等による地域の取組への支援

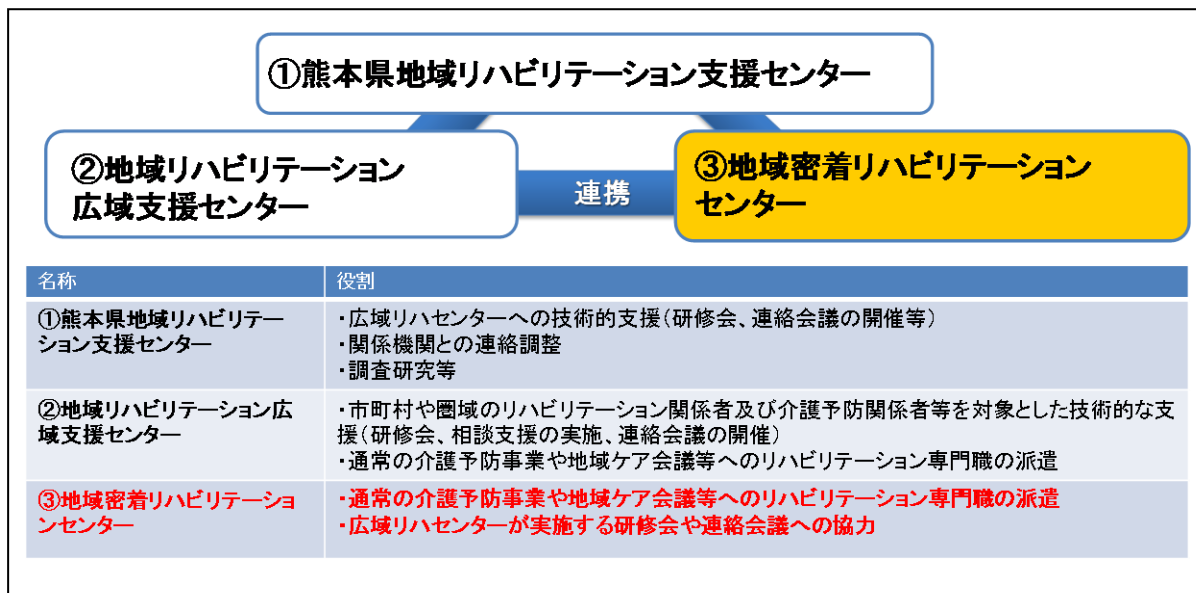
- ・地域リハビリテーション広域支援センターや地域密着リハビリテーションセンターから専門職を派遣し、通所、訪問、地域ケア会議及び介護予防に係る住民運営の通いの場、住民啓発等の地域の取組を支援します。

##### ○災害時のリハビリテーション体制の整備

- ・災害時に避難所や仮設住宅等へのリハビリテーション専門職の派遣等に係る体制を速やかに構築するため、地域リハビリテーション体制との連携による災害時のリハビリテーション体制の強化や、実践的な研修等を通じて

人材育成に取り組めます。

【参考：地域リハビリテーション体制】



④地域包括支援センター等の自立支援ケアマネジメント機能等の強化

【現状と課題】

- ・地域包括支援センターは、高齢者等からの総合相談や権利擁護をはじめ、介護予防ケアマネジメント、医療と介護の連携、生活支援等、地域包括ケアシステムにおける中核的な機関であり、今後さらにその人的基盤の充実・強化が必要です。

【目指すべき方向】

- ・研修等によるケアマネジメント力の向上や専門職派遣体制の充実を通じ、地域包括支援センターの体制強化を推進します。
- ・自立支援のためのケアマネジメントを推進するため様々な職種（地域包括支援センター、介護支援専門員、リハビリテーション専門職、看護職員、在宅歯科従事者等）に対して、自立支援志向の意識の醸成や自立支援のスキルアップ、多職種連携体制の構築等を支援します。

【個別施策】

○地域包括支援センターの機能強化

- ・地域包括支援センターの機能強化等に向けた研修会の開催等を通じたケアマネジメント力の向上を図ります。
- ・地域包括支援センターが行う介護予防活動や地域ケア会議等への専門職人材の派遣体制を強化します。

#### ○地域ケア会議の充実・機能強化

- ・司会者（ファシリテータ）養成や地域ケア会議構成員等（市町村、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、サービス事業所及び専門職（助言者）等）からなるチームのアセスメント能力向上等に向けた研修等を開催します。
- ・また、熊本県地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センター、リハビリテーション専門職団体と連携して専門職人材の育成に取り組むとともに、地域ケア会議アドバイザーとしての専門職人材の派遣体制を構築します。

#### ○自立支援のためのケアマネジメントへの支援

- ・地域包括支援センター職員等を対象とした介護予防ケアマネジメント研修や地域ケア会議における司会者（ファシリテーター）養成研修等を開催します。また、県内のリハビリテーション専門職団体と連携し、研修等を通じ自立支援を推進できる専門職人材の育成を図ります。

#### ○多職種に対する高齢者の自立支援に向けた人材育成

- ・介護支援専門員や介護事業所の看護職員、在宅歯科従事者（歯科医師及び歯科衛生士）、作業療法士等の多職種に対して、自立支援の重要性、各々のスキルや多職種連携等に関する研修等を実施します。

### ⑤高齢者の自立のための介護予防の展開・生活支援サービスの充実

#### 【現状と課題】

- ・介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、生活支援サービス等の充実に向けて取り組む市町村の数は増加傾向にあります。今後、高齢者が住み慣れた家や地域での生活を継続させていくためには、利用者のニーズに応じ、見守り、配食、買い物や家族介護者への支援等の多様なサービスが、インフォーマルなサービスも含め幅広く求められています。
- ・また、介護予防事業に積極的に取り組んでいる市町村では、高齢者の生活機能の維持改善が図られるとともに、結果的に要介護認定率の低下や介護給付費の抑制等につながっているところもあります。
- ・しかしながら、全体的には要介護認定者数の増加が見込まれるため、リハビリテーションに係る専門職や関係機関等の基盤の強化等、介護予防に向けてのより一層の取組の充実が必要です。

#### 【目指すべき方向】

- ・市町村が、医療や介護の充実に加え、地域の実情に応じて、ボランティア、NPO、地域住民等様々な主体による多様な生活支援サービスを充実するこ

とができるよう支援します。

- ・介護予防活動の充実を通じ、手段的日常生活動作（IADL）を向上させ、高齢者が地域の中で生きがいや役割を持ち自立した生活を送ることができるよう支援します。

#### 【個別施策】

##### ○介護予防・日常生活支援総合事業や生活支援サービスの充実

- ・市町村や地域包括支援センターを対象とした研修会等を通じて、多様な生活支援サービスの充実に向けた取組を促進するとともに、民間団体等に対するサービスの立ち上げ支援を行う等、多様な主体の参画を促進します。また、地域の多様な主体との連携体制の構築等に向けた市町村支援の充実を図ります。

##### ○活動と参加による介護予防の推進

- ・高齢者が住み慣れた身近な場所において、継続的に介護予防の様々な取組に参加できるよう、地域住民が運営する「通いの場」の普及拡大を全市町村で進めます。

##### ○地域の縁がわづくり

- ・地域の縁がわがない地域に登録を働きかけるとともに、5つ星プロジェクト<sup>①</sup>を推進します。

## ⑥健康寿命の延伸に向けた高齢者の健康づくりの支援

#### 【現状と課題】

- ・本県の平均寿命は男女とも全国で上位であるものの、健康寿命は全国で中位のため、健康な状態を長期にわたって継続するための取組が必要です。

#### 【目指すべき方向】

- ・高齢者の健康寿命の延伸のため、高齢者の健康づくりを引き続き推進していきます。

#### 【個別施策】

##### ○シルバースポーツ交流大会（熊本ねんりんピック）の開催

- ・シルバースポーツ交流大会等を通じて、スポーツや文化活動を通じた高齢者の健康と生きがいづくりや高齢者相互の交流推進を図ります。

##### ○老人クラブによる健康づくりの活動推進

- ・老人クラブが取り組んでいる体力測定等の健康づくり事業を活性化して、健康づくりを進めます。

<sup>①</sup> 5つ星プロジェクトとは、地域の縁がわ取組団体の特長を生かした取組みを基本としつつ、「見守り活動」「配食・会食」「買い物支援」「健康づくり」「学び」の5つの取組みを推奨するプロジェクトです。

#### ○ロコモティブ・シンドローム予防の推進

- ・高齢者の身体活動・運動の重要性の啓発や市町村等の取組を支援するとともに、ロコモティブ・シンドローム<sup>②</sup>を広く周知して予防するために、医療機関や介護事業所等に「ロコモ予防応援団」への登録を呼びかけ、その応援団を活用した普及啓発活動を推進します。

#### ○高齢者の身体活動・運動の推進

- ・高齢者のロコモティブ・シンドロームを予防することで、運動器の健康を維持し、フレイル<sup>③</sup>を予防するため、高齢者の身体活動・運動の重要性について啓発を行うとともに、市町村等の介護予防の取組を支援します。また、一日当たりの平均歩数や運動習慣者の増加に向けた支援をより一層強化するため、研修、講演会を通じて関係職員の資質向上や関係者間の連携を強化します。

#### ○高齢者の食生活の支援

- ・高齢になっても健康的な食生活を実践できるよう、飲食店や弁当惣菜店等で量や軟らかさに配慮した料理が提供される等の食環境の整備を図ります。
- ・食生活改善により低栄養を予防し、フレイル予防につなげるため、食生活改善推進員等による健康づくりや食生活支援のボランティア活動を支援します。

#### ○高齢者の歯・口腔の健康づくり

- ・高齢者の生活の質の向上を図るために、歯と全身の健康状態との関係や食べる機能の維持・確保に関する知識を普及し、8020運動の推進を図るとともに、要介護者及び介護予防対象者等の口腔機能の維持・回復に寄与する人材を育成します。

#### ○農業・農村との連携

- ・農業、農村の持つ多面的機能の一つである心身の機能回復効果を活用し、農作業等を通じた健康づくり等の取組に加え、農業参入や農作業に取り組みたい福祉団体と、農繁期の人手不足等の農業関係者のニーズとのマッチングを図る等、福祉と農業が連携した取組を推進します。

#### ○総合型地域スポーツクラブの育成支援

- ・市町村と連携し、総合型地域スポーツクラブの設立・運営支援や高齢者の疾病予防対策としてのクラブ活用を推進します。

---

<sup>②</sup> ロコモティブ・シンドロームとは、運動器の障がいにより、暮らしの中の自立度が低下して、介護が必要になることや、寝たきりの可能性が高くなる状態のことで、要介護状態の主要な原因ともなっています。

<sup>③</sup> フレイルとは、加齢が進むにしたがって徐々に心身の機能が低下し、日常生活活動や自立度が低下していく状態（虚弱）のことで、要介護状態に陥る最たる要因と言われています。しかるべき介入があればフレイルは予防できるとも言われています。

- ・ 高齢者への対応も視野に入れた地域スポーツ指導者研修会を開催し、指導者の資質の向上を図ります。

## ⑦高齢者の見守りネットワークの構築

### 【現状と課題】

- ・ 高齢者のみで構成される世帯は今後も増加することが見込まれており、かつ、地域とのつながりの希薄化等地域コミュニティ機能の低下とも相まって「孤独死」、「悪徳商法による被害」等の問題が生じています。また、災害時における要支援者の避難支援の整備体制が求められているため、高齢者の見守りを行う関係機関のネットワークの構築が必要です。

### 【目指すべき方向】

- ・ 高齢者の安全・安心の確保のため、高齢者の見守りネットワークの構築について引き続き推進していきます。

### 【個別施策】

#### ○地域の結いづくり

- ・ 住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、誰が誰を見守るかが明確にされ、組織的・活動的な見守り活動が行われる“地域の結いづくり”を推進します。

#### ○高齢者等の消費者被害の未然防止・早期救済

- ・ 市町村の見守りネットワーク構築を支援するとともに、消費者安全確保地域協議会への移行を推進します。

#### ○災害時の避難行動要支援者の避難支援体制の構築

- ・ 避難行動要支援者の避難支援に係る個別計画を未策定の市町村に対して策定の推進及び支援を行うとともに、策定済みの市町村に対し当該者の特性に応じた避難支援計画の見直しの支援を行います。

#### ○DCA Tの体制整備

- ・ 被災地への派遣に備えて、関係者で協議の上、DCA Tの円滑な派遣体制を整備するとともに、チームを統括するリーダーや隊員の育成に取り組みます。